

令和6年度 事業計画書

公益財団法人富山市ファミリーパーク公社

令和6年度 公益財団法人富山市ファミリーパーク公社事業計画（案）

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

I 基本方針

「人を元気に、森を元気に、いのちを元気に、地域を元気に」をコンセプトに、豊かな里山の自然の中で、動物福祉の向上を図るとともに、日本産動物の飼育展示や国内外の希少野生動物の保護増殖、在来家畜の保存に努め、多様な生物の世界やいのちのつながりを伝える。また、園内の自然を活用・整備しながら里山の貴重な動物や自然の保全と普及啓発に努め、市民とともに新しい里山づくりに取り組む。

さらに、地域住民や近隣の各施設・団体と連携し呉羽丘陵の活用の拠点として、丘陵一帯の自然を楽しみながら健康増進や癒しの場となる事業を充実させ、里山としての呉羽丘陵の魅力を園内外に情報発信しながら、地域に根差した園づくりを進めていく。

また、近年の鳥インフルエンザや豚熱等の感染症流行、動物福祉の向上の取組みなどの新たな社会問題や課題に対応し、ファミリーパークが持続して市民に利用されるよう、運営や施設整備の方向性について市と共に検討していく。

その他、県内外からの利用者に向けて誘客事業の充実を図り新規顧客の獲得と利用者の拡大を図る。

II 事業計画

1 富山市ファミリーパーク開園40周年記念事業

昭和59年に開園した富山市ファミリーパークは、令和6年度に開園40周年を迎える。開園40周年記念事業として4月28日の開園記念日に「記念式典」や、記念事業の『わたしの出会ったライチョウフォトコンテスト』の表彰式を開催するとともに、作品展示やコンテストの選者である野鳥写真家の戸塚学氏の記念講演を予定している。また、園内にこれまでのファミリーパークの歴史に関する写真・解説パネルを設置する企画展や記念誌の発行を行う。さらに、40年を振り返るとともにファミリーパークの将来像を検討する「40周年記念シンポジウム」の開催を富山市と協議しながら進める。

2 SDGsに呼応した事業の推進

ファミリーパークが行っている、飼育展示事業や希少動物を中心とした繁殖

研究事業、教育普及事業、里山保全管理・整備研究事業、里山活用事業などは、SDGs の目標である「15. 陸の豊かさを守ろう」や「4. 質の高い教育をみんなに」に合致している。

令和6年度もこれらの事業を引き続き推進することで、ファミリーパークに来園する多くの方々にSDGsについて考える機会を体験的に提供する。

また、園外の環境イベント等に積極的に参加し、ファミリーパークの事業や活動を紹介するなどして、SDGsの推進に寄与する。

3 新整備計画の見直しの検討

富山市が平成23年度に策定した「富山市ファミリーパーク新整備計画」は策定から10年以上が経過している。この間、来園者のニーズ変化や動物の感染症流行対策、動物福祉の向上への取組みなど、ファミリーパークを取り巻く社会情勢は大きく変化している。加えて計画に予定されていなかった施設が新たに整備されたことや既存施設の老朽化が進行しており、これらを踏まえて、新整備計画の見直しや施設の老朽化対策などについて富山市と共に検討する。

4 ライチョウ基金事業

(1) 基金を有効に活用し、公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、JAZA）と連携し進めている国のライチョウ保護増殖事業における飼育繁殖技術の確立や人材育成を支援するとともに、多くの人に、ライチョウの現状や保全の必要性を伝える普及啓発事業を推進する。

(2) 基金への寄附を引き続き、来園者や市民・県民に限らず広く募っていく。
また、売り上げの一部が基金に寄付されるオリジナル商品の開発などを会社の自主事業と連携して推進する。

※令和6年度ライチョウ基金事業計画（案）：別添参考資料

5 希少動物保全基金事業

(1) 基金を有効に活用し、生物多様性の保全に寄与することを目的に、希少動物の飼育・繁殖技術の確立に向けた技術開発および人材育成、普及啓発に取り組む。

令和5年度に引き続き、国際希少野生動物種であるヨウムについて、野生復帰を想定した飼育下繁殖技術の確立を目標に繁殖プロジェクトを推進する。また、園内や呉羽丘陵に生息する絶滅危惧種ホクリクサンショウウオの保全を図るため、生息地の環境整備活動などの生息域内保全と飼育・繁殖の技術開発を進める生息域外保全を連携して推進する。

(2) 基金の目的である生物多様性の保全の重要性を広く周知し、基金への寄附

を募っていく。また、公社の自主事業で売り上げの一部が基金に寄付されるオリジナル商品の開発に引き続き取り組んでいく。

※令和6年度富山市ファミリーパーク公社希少動物保全基金事業計画（案）
および事業予算（案）：別添資料1

6 公益目的事業

(1) 施設管理事業

施設の安全性を確保し、利便性を向上することで、入園者が安心して快適に過ごせる施設を目指す。

① 維持管理

快適な園内環境を来園者に提供するために、建物および設備等、施設の維持管理を行う。

② 利便性の向上と安全管理

利便性向上に資する観覧環境の改善や、老朽化に伴う改修を計画的に行うことで入園者の安全性の確保を図る。

③ 入園料の徴収

入園料の徴収受託事務を行う。

また、入園料の支払については、キャッシュレス決済の利用を推進し、更なる利便性の向上を検討する。

④ 感染症対策

鳥インフルエンザ、豚熱等の社会的に影響が大きい感染症について、入園者・動物・職員に対する衛生管理を徹底することにより感染拡大防止に努める。

⑤ 団体利用者誘致の推進

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後も減少している入園者数の回復を目指し、団体利用者の増加を目的として、県内外の幼稚園、保育所、小中学校や各種グループ、シニア層の団体等への誘致活動の強化を図る。

また、市の入園料の減免取扱いの見直しが予定されており、高校が行事として利用する場合は減免となることから、高校への利用促進を行う。

さらに、訪日観光客への周知について、市の観光政策部署へも相談する等し、ファミリーパークの魅力を様々な形で発信し誘致を図る。

⑥ 広報・広告活動の充実

ホームページ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、最新のトピックスやイベント情報を積極的に発信する他、新たな広告媒体の利用など、効果的な広報・広告について検討する。

(2) 動物管理事業

いのちの大切さや、人と動物のかかわり、生物の多様性を伝えることを

目的に、動物の展示および普及啓発に努める。

また、動物展示や解説を通して、その動物の生活や特性、現状を伝え、希少動物とそれを取り巻く環境保全の必要性を伝える。

ニホンライチョウなどの希少動物の繁殖研究事業、教育普及事業の推進に努める。

① 飼育展示事業

各々の動物の特徴的な形態や行動の展示を充実させることで、生物の多様性について伝えるとともに、親子の展示などを通して、いのちの大切さを伝える。また、日本産の動物の展示を充実させ、野生動物と人と里山環境との関係について伝える。さらに、日本在来家畜、家禽の展示を通して、日本人との関わりや文化を伝え、その普及と保存に努める。

これらの展示を充実・発展させるために、コレクションプランに基づいた動物の収集を進める。

また、鳥インフルエンザや豚熱などの感染症対策として、飼育動物の安全を担保しながら展示できる施設の整備などについて検討していく。

② 繁殖研究事業

コレクションプランに基づいて動物種ごとの繁殖に取り組む。特に国内外の希少野生動物について、国内の他の飼育園館や関係機関等と連携して、飼育繁殖技術の確立を目指した繁殖研究に取り組み保護増殖に努める。また、飼育繁殖技術の継承を図るため、人材育成とその組織作りに取り組む。

③ 教育普及事業

幅広い年齢層を対象とし、動物を活用した各種ガイドや体験プログラムを実施し、生物の多様性や人と動物のかかわり、いのちの大切さについて伝える。

季節に応じた催物を企画・実施し、様々な視点からの普及啓発に努める。

また、実習や研修を受け入れ、動物を通じた教育活動に取り組む。

さらに飼育展示事業および繁殖研究事業、教育普及事業などに関わる調査研究によって得られた成果や情報を、展示や各種研究会、講演の他、資料やリーフレットの配布などを通して、市民に提供する。

④ 在来家畜・家禽保全事業

天然記念物である岐阜地鶏や比内鶏など、日本鶏の展示や、木曾馬等の在来馬の乗馬体験事業の充実を図り、日本人との関わりや文化の普及啓発を図る。また、飼育在来馬の高齢化に伴い在来馬の新たな導入について調査し、在来馬の保存を図る。

⑤ 動物福祉の推進

世界的に動物園における動物福祉の向上が課題となっていることから、当園においても動物の種類や個体ごとに適した飼育環境を整え、動物福祉の向上を図る。昨年度に引き続き、園内の取組みの自己評価を行い、その

結果を検証し、改善に取り組みながら、継続的な動物福祉の向上に努める。

(3) ライチョウ保護増殖事業

ライチョウ基金を活用し、環境省のライチョウ保護増殖事業計画および JAZA のライチョウ生息域外保全計画に基づき、野生復帰を想定した自然繁殖技術の確立を目指し、科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。また、環境省が行っている中央アルプスにおけるライチョウ野生復帰事業に引き続き他園と連携し協力していく。

さらに、ライチョウの展示やシンポジウムの開催を通して、その生息状況や保全の大切さを伝える普及啓発に努める。

(4) 希少動物保全事業

① ヨウム繁殖プロジェクト事業

希少動物保全基金を活用し、野生復帰を想定したヨウムの繁殖技術の確立に向けて、大学や現地ウガンダの関連機関と連携して繁殖生理や飼育管理方法の科学のおよび技術的な知見の蓄積に努める。

また、展示や一般向けの催物を通して、その生息状況や保全の取り組みについて普及啓発に努める。

② ホクリクサンショウウオ域外保全事業

絶滅危惧種ホクリクサンショウウオの飼育・繁殖技術の確立に努めるとともに、野生復帰を想定したホクリクサンショウウオの保全のモデルケースを確立できるよう検討する。生息域内保全事業である「悠久の森 ホクリクサンショウウオ保全プロジェクト」と連携して、園内だけでなく呉羽丘陵全体での保全活動につなげられるよう検討する。

また、生体展示や催物を通して、ホクリクサンショウウオの生息環境の現状を伝え、里山環境の保全の大切さについて普及啓発に努める。

(5) 地域事業

地域の施設や学校、団体・住民と連携して、自然や文化、健康などをテーマに、ファミリーパークを中心に、園内外の呉羽丘陵で催物を実施し、地域の魅力を伝えることで、幅広い年齢層の市民の誘致を図る。また、「呉羽丘陵フットパス」を活用し、里山の自然に親しむ企画を実施することで、ファミリーパークを呉羽丘陵の活用拠点としての機能を充実させるとともに、「富山市 SDGs 未来都市計画」における市民の歩くライフスタイルへの転換の推進に協力する。

① 悠久の森事業

悠久の森実行委員会に参画し、呉羽丘陵を広く活用した事業の推進に努める。また、主要事業であるフェスタは、事業の継続および拡充に向け、

企画・立案に寄与する。

連携事業の「ホクリクサンショウウオ保全プロジェクト」では、域内保全として、生息地の環境整備活動や小学校への出前授業により、現状や保全の必要性を伝え、域外保全事業と連携しながら呉羽丘陵に生息するホクリクサンショウウオを地域で守っていく仕組みづくりに努める。

また、「呉羽丘陵散策」などの他の連携事業も引き続き実施し、呉羽丘陵の動植物や歴史などの魅力を伝え、多くの市民・県民による呉羽丘陵の活用を促す。

② 輝け！いのちの集い事業

輝けいのち協議会と連携し、いのちの尊さを普及啓発する事業「輝け！いのちの集い」を実施する。また、小中学校、高校などの児童・生徒・PTA関係者とも連携を深め、「いのち」をテーマとした講演会を開催するなど、いのちについて考える機会を広く提供する。

③ 地域連携事業

市内や県内の学校、団体・企業などと連携を図り、自然、健康、スポーツ、文化等をテーマとして、ファミリーパークや呉羽丘陵を活用した催物を実施する。また、その連携を強化し、連携のネットワークを構築することで、ファミリーパークの呉羽丘陵における拠点としての役割の充実を図る。

④ ボランティア活動支援事業

市民団体や県内企業による園内でのボランティア活動を受入れ、支援することで園内の環境整備と魅力向上を図るとともに、自然や動植物についての普及啓発につなげる。

⑤ 活性化事業

ゴールデンウィークやシルバーウィークなど季節に応じた催物を企画・実施することで来園者の誘致を図る。夏と秋には開園時間を延長した日を設け、夜の動物園や自然散策を楽しむ機会を提供する。

また、動物友の会では、動物や自然とのふれあいなどの様々な企画を通して、ファミリーパークの魅力の普及啓発に努め、世代を超えた利用の促進に努める。

さらに、障害のある方を対象としたプログラムを実施し、動物園の社会的役割の充実を図る。

(6) 里山事業

園内の里山に生息する野生動植物に関する調査研究活動や整備を実施しながら、自然環境の保全を図り、市民が園内および呉羽丘陵で里山の自然を楽しみながら知ることができる事業を実施する。

① 里山保全管理・整備研究事業

悠久の森実行委員会や市民いきものメイト、呉羽丘陵にホタルを呼ぶ会などの学校や施設、団体と連携し、園内の自然の保全や、ホクリクサンショウウオやホタルの生息域内保全を推進する。

② 里山活用事業

展示や解説を通してムササビや野鳥など園内の野生動物や自然についての普及啓発を推進する。また、ホタルの発生時期に合わせて夜間開園日を設け、ホタルの鑑賞や夜の自然散策を楽しむ機会を提供する。

また、里山の野生動物や自然についての体験展示やガイドを拡充させ、呉羽丘陵の自然を楽しみながら里山利用の面白さを実感してもらう。

さらに、学校の課外実習や研修では、動物展示に加えて園内の自然を活用することで、質の高い体験や学びができるよう事業展開を図る。

7 収益事業等

(1) 遊園地維持等受託事業

遊具の点検・整備を行い、利用者が安心・安全に利用できる運行に努める。

① 維持管理

各種法定検査等を実施しながら、運行の安全性の維持を図る。また、老朽化が進んでいることから、今後の運営方針について富山市と協議する。

② 安全管理

施設の老朽化に伴う安全対策の徹底を図る。

③ 遊具使用料の徴収

遊具使用料の徴収受託事務を行う。

(2) 自主事業

入園者のニーズや動向の変化に応じた経営の見直しや利便性を向上させ、開園40周年を記念した様々なイベントに併せた営業を展開して自主事業の拡充を図る。

① 売店・食堂事業

開園40周年をテーマとしたオリジナル商品の開発を行うなど、収益性の向上を目指しながら、その売上の一部をライチョウ基金や希少動物保全基金に繰り入れる仕組みを拡充する。また、季節やイベントと連携した企画を立案し販売促進に努める。

② ホースライド事業

在来馬を中心とした乗馬、障害者乗馬会などを実施し、エサやり体験などを行う。

8 法人会計

- (1) 公益財団法人として適正な運営に努める。
- (2) 公社の財務会計及び予算・決算等の経理を行う。
- (3) 指定管理者としての指定申請事項に基づく法令等の遵守。

9 ファミリーパーク施設使用料徴収受託事業

入園者見込数	内 訳		
	有料エリア	183,840人 (有料入園者数70,060人) (無料入園者数113,780人)	
無料エリア	116,160人		
総入園者数	300,000人		
入園料	38,167千円	個人大人 500円×58,000人	29,000,000円
		団体大人 400円×7,500人	3,000,000円
		個人70歳以上 250円×500人	125,000円
		共通パスポート (販売) 1,500円 ×4,000人	6,000,000円
		3日間共通パスポート 700円×60人	42,000円
用 遊 料 具 使	20,000千円	アニマルコースター等 200円×83,500回	16,700,000円
		電気周遊車 100円×13,000回	1,300,000円
		ボート 400円×5,000回	2,000,000円
合計	58,167千円		